

第5回 (仮称)練馬区地域コミュニティ活性化プログラム検討懇談会 議事概要

《日時・場所》

- 1 平成23年9月1日 午後6時～午後8時
- 2 場所 練馬区役所本庁舎5階 庁議室

《次第》

- 1 開会
- 2 第4回懇談会の議事概要
- 3 議題
(1) 地域活動団体同士の連携について
- 4 その他

《出席者》

大垣喜久江委員、岡田尚子委員、小川善昭委員、小美濃千鶴子委員、加藤政春委員、鈴木恭一郎委員、玉井弘子委員、玉野和志委員、田村哲明委員、戸田了達委員、浜屋光正委員、原秀年委員、樋口謙次委員、平田稔委員、森本陽子委員、渡邊裕委員

(区出席者) 区民生活事業本部長、産業地域振興部長

(事務局) 地域振興課職員 5名

(傍聴者) 1名

1 開会

座長

- ・第5回地域コミュニティ活性化プログラム検討懇談会を開催する。

2 第4回懇談会の議事概要

座長

- ・第4回懇談会での議事概要について、事務局から確認をお願いする。

事務局

- ・第4回懇談会議事概要について、各委員には事前に送付させていただいた。現時点で修正などのご意見はいただけていないが、加筆・修正等があればお出しいただきたい。
- ・何もなければ、今後、区のホームページで公開していく。

座長

- ・特に意見等がないので、第4回懇談会議事録については、区のホームページでも公開していく。

3 議題

(1) 地域活動団体同士の連携について

座長

- ・事務局より、第4回懇談会議事概要について、本日の議論につながる意見を整理した部分の報告をお願いする。
- ・前回までの議論を思い出しながら、今回の検討事項である「地域活動団体同士の連携について」の議論につなげていきたい。

事務局

- 第4回議事概要により、論点の説明

座長

- ・本日は地域活動団体同士の連携について議論する。地域の各団体をつなぐ役割であるコーディネーターの必要性については、前回の懇談会でも議論されている。
- ・議論に入る前に、練馬区では、地域福祉の側面から、地域福祉コーディネーターという制度がある。必ずしも、この検討会で議論されているコーディネーターがこうあるべきだというものではない。地域福祉コーディネーターを拡張して活かしていく考え方もあるし、あるいは、全く別のものとして検討していくという考え方もある。
- ・まずは、一つの例として、L委員よりご紹介いただきたい。

L委員

- 資料1により、練馬区社会福祉協議会（以下、「社会福祉協議会」という。）「第3次地域福祉活動計画」の概要の説明
- ・社会福祉協議会が策定した「第3次地域福祉活動計画」は、区が策定した「第2期地域

福祉計画」と連動している。

- ・この計画の重点的な取組の一つとして「小地域福祉活動の推進」というものがある。これは、住民と一緒に、地域の課題の発見や解決を行う新たな支え合いの仕組みづくりに取り組むものである。具体的には、一定のエリアを定め、その地域に地域福祉コーディネーターを配置し、地域の特性や課題など地域の実情を洗い出しながら、住民や団体をつないでいくことによって、地域の課題解決を図っていくものである。
- ・「小地域福祉活動」とは、身近な地域で高齢者、子ども、障害者、外国籍の方など、誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指して、住民や団体が取り組む福祉活動である。
- ・社会福祉協議会では、平成 23 年度から区内にモデル地区 2 か所を設定し、地域福祉コーディネーターを配置して「小地域福祉活動」を推進していくこととしている。
- ・モデル地区のエリアについては、本懇談会の第 1 回目に示された資料の練馬区を 17～20 地区程度に分けた第 3 層をイメージしている。
- ・現在のモデル地区は、光が丘高齢者相談センター光が丘支所約 30,000 人の圏域と、練馬高齢者相談センター豊玉支所約 30,000 人圏域であり、その地区に地域福祉コーディネーターを配置している。
- ・地域福祉コーディネーターが地域に入ることによって「地域で心配している人同士がつながる」、「地域の心配ごとを共有することで今まで知らなかった団体とも連携し、住民自身の手で解決しようと動き出す」、「心配ごとを自分たちの手で解決していく中で、住民同士のつながりが強まり、支援の輪が広がる」といった状態を目指している。
- ・小地域福祉活動の進め方として、まずは、地域福祉コーディネーターが積極的に地域に出向き、地域の会合や集まりに参加して住民や団体と顔の見える関係をつくりながら地域の課題や情報を共有する。その中で、地域の課題を地域で考える場をつくり、地域住民と一緒に知恵と力を出し合って課題解決に取り組んでいく。
- ・こうした地域課題の発見や解決に繰り返し取り組んでいくことで、住民、団体、関係機関のつながりが強まり、地域のつながりによる課題解決ができるよう、お手伝いをしていく。
- ・また、住民の中では既に積極的に取り組んでいる方がいるので、地域がつながり強まることによって、そうした方がさらに活動が活発に展開できるようになることが期待できる。地域福祉コーディネーターは、住民の活動の場や地域の支え合いが広がっていくようお手伝いしていく。
- ・小地域福祉活動では、地域の特徴をつかむため、基礎調査やアンケート調査を実施し、地域課題の把握を行うとともに、地域の方々と出会うことで地域を知り、地域課題の共有化を図り、課題解決へつなげていくことが大切である。その際、地域の人材の発掘、育成、支援が大切であり、地域の中で学びあう機会をつくる必要がある。
- ・社会福祉協議会が考える地域福祉コーディネーターは、個別課題での対応を通じて、地域でのつながりづくりを、住民、団体、町会・自治会などと一緒に進めてくものである。

座長

- ・ L 委員に地域福祉コーディネーターについてご説明いただいた。ご意見や質問などあればお出しいただきたい。
- ・ また、地域福祉コーディネーターの身分・資格はどのような形になっているのか。この事業費は、区の予算なのか。

L 委員

- ・ 地域福祉コーディネーターは、社会福祉協議会の常勤職員であり、社会福祉の総合的な専門知識、行政サービス等の知識を有するものが担当している。具体的には、社会福祉協議会の組織の一つであるボランティア・地域福祉推進センターを担当部署として、その部署の職員がチームで取り組んでいる。
- ・ 事業費については、区がモデル地区ごとに、人件費各 1 人程度の予算を組んでいる。

R 委員

- ・ 地域福祉コーディネーターの人数は、モデル地区ごとに 1 人なのか。

J 委員

- ・ 人件費としては 1 人ずつであるが、光が丘にはボランティア・地域福祉推進コーナーもあるため、地域福祉コーディネーターをリーダーにしつつ、他の職員も含め、一緒にチームとして活動している。
- ・ 各チームは 3 名または 4 名で対応している。

座長

- ・ 地域福祉コーディネーターは、あくまで「地域福祉計画」という一つの分野から出てきたものでもある。今後、この懇談会でコーディネーターを示していく場合には、地域福祉コーディネーターとは全く別のものとして配置していくのか、あるいは、地域福祉コーディネーターと関連づけて配置していくのかなどの検討が必要になると思う。
- ・ ここからは、町会・自治会以外の様々な団体同士が、現状どのような関係にあるのかを確認しながら、意見交換をしていきたい。
- ・ 具体的には、各団体の情報は共有されているか、あるいは、他の団体の情報が無いのか、情報が無い場合に情報を欲しいと考えているのか、他団体と連携したいと考えているのか、現状のままで良いと考えているのかなど、意見を伺いたい。

D 委員

- ・ 青少年育成地区委員会は、区内の小中学校 100 校を 17 地区に分け、17 の会長のもと運営をしている。委員は約 2,000 名おり、ほとんどが女性である。年齢的には、40 歳代から 50 歳代がほとんどであり、地域に貢献されている方が集まっている。
- ・ 町会連合会の 17 の支部と青少年育成地区委員会の 17 の地区の区分けは、完全には重複していないが、ほぼ重なっている。私が所属する青少年育成地区委員会の地区内には、26 の町会・自治会がある。年に 1 度、全町会長に参加を呼びかけ、会議を開催しているが、6 団体程度しか参加していただけない。自治会にも出席をお願いしているが、会長

が1年限りで交代するところが多く、なかなか参加していただけない。26 町会・自治会をまとめることは難しい。

- ・町会連合会の支部と連携ができれば、青少年育成地区委員会の地区の活動も広がる。また、情報もたくさん入ってくるようになると思う。今までは個別に町会・自治会に呼びかけをして、お祭りや学校の行事、防災訓練など行ってきたが、町会連合会の支部を通すことで、お互いに動きやすくなるのではないかと感じている。
- ・青少年育成地区委員会と町会連合会支部の地区の区分けは少し違う部分もあるが、17 という数字は、非常に受け入れやすい。

座長

- ・現状、D委員の青少年育成地区委員会は、個別に町会・自治会と対応しており、同じ地区をまとめている町会連合会支部と連携できれば良いという趣旨のご発言である。
- ・小中学校のPTAと青少年育成地区委員会との関係についてはどうか。

H委員

- ・私の小学校のPTAの場合、PTAの役員の中で、青少年育成の行事を担当する委員を5名～6名ほど決めて、青少年育成地区委員会に参加している。その委員がPTAのメンバーを集め、青少年育成地区委員会の夏休みのイベントや秋の行事の運営のお手伝いをしている。

I委員

- ・私の中学校のPTAも青少年育成地区委員会の活動に参加している。ただ、同じ地区の青少年育成地区委員会は、同じ人が長く役員として運営に携わっているため、意見を申し上げてなかなか聞き入れてもらえないことがある。例年同じ活動をしているだけなので特段支障があるわけではないが、その地域で本筋を踏まえて何か新しいことをやろうとした場合、難しい気がしている。
- ・青少年育成地区委員会は、小学生向けの行事が多いので、小学校のPTA関係の方は、深く関わってお手伝いをしているが、中学生になると行事が減ってくる。ただ、今度はお手伝いとして、中学生を出す立場に変わってくる。そうした部分では関係しているが、今後、団体同士の連携、地域の活性化の中で、中学校のPTAと青少年育成地区委員会と、どのように関わっていくか考える必要があると思う。

E委員

- ・青少年育成地区委員会も地域によって様々だと思う。私の所属している青少年育成地区委員会は、町会の役員がほとんど入っていない。学校の校長先生やPTAの役員は充て職となっている。皆さんが率先して取り組んでいただいている。なるべく学校関係の現役の方を立てながら行事を進めている。中学生も小学生対象のイベントにボランティアとして積極的に参加している。
- ・D委員、I委員の話を伺って、同じ青少年育成地区委員会でも、随分、様子が違うと感じた。

座長

- ・これまでの懇談会での議論でも確認されているが、練馬区は、地域によって実情が違うという前提がある。青少年育成地区委員会と小中学校は、PTAでの関わりや行う事業が決まっていることもあり、連携がとれていることが確認できた。しかし、しっかりと決まっているからこそ、新たな問題提起などが難しかったり、行事のあり方などを確認できなかつたりしている。
- ・また、青少年育成地区委員会の役員は長く携わっているが、PTAの役員は1年限りであるなどの関係の中で、関わりはあっても、その関わりの中で活性化するところまでは難しく、何らかの工夫が必要であるというのが現状であるように感じた。
- ・青少年育成地区委員会と学校の関係の中で、他の子育てや教育関係の団体と行事などで関わりがあるのか伺いたい。

I委員

- ・私の地区の青少年育成地区委員会は、基本的に3つの小学校とPTAで構成されている。地区祭では町会も関わることはあるが、子どもたちの行事はその三者で取り組んでいる。

座長

- ・青少年育成地区委員会と学校との関係は、制度的にしっかりした形で受け継がれていることは確認できた。
- ・様々な団体との連携という面からすると、子育てなどのサークル、ボランティア団体などを巻き込んでいきたいと考えているのか。それとも、現状のままで良いと考えているのか伺いたい。
- ・また、学校関係以外の活動をしている人から見て、青少年育成地区委員会や学校と何か連携できそうなことがあるのか、あるいは、そうした活動自体があることを知らないのか、その辺りの団体間の情報や日頃からの付き合いの度合いなどについて伺いたい。

O委員

- ・青少年育成地区委員会の活動については知ってはいる。良い活動をしていると思うが、地域ではあまり知られていないので残念に思う。青少年育成地区委員会に限らず、どの団体も、活動が内向きであるように思う。各団体の役員の方々には、新しい人を呼び込むという姿勢があまり感じられない。地域には人材がたくさんいると思うが、それを活かそうとしてないことが残念である。
- ・例えば、青少年育成地区委員会と老人クラブが連携すれば、子どもたちと高齢者の異世代交流ができると思うが、そうした連携はない。
- ・テーマ別の活動団体も同じように横のつながりが無いように思う。

座長

- ・今の意見を踏まえて伺いたい。各団体は、情報が無くて知らないのか、知ってはいるが反りが合わないため上手くいかないのか、あるいは、各活動している人たちが、自分たちの活動が手一杯で、そこまで手が回らないのか。内向きであるという指摘はその通り

だと思うが、内向きになってしまう理由があれば教えて欲しい。

I 委員

- ・小中学生の中で、青少年育成地区委員会は一番身近な団体である。潮干狩りからキャンプ、スケート教室、地区祭などを行ってくれるのは、非常に有難い。PTAとしてもお手伝いに行く。ただ、そうした行事の運営側の話になると、壁があり、そこまで深く入れない。何か意見を言ってもそこで終わってしまう。運営側に余裕がないというよりも、決まった行事を例年どおり実施することに徹しているように感じる。
- ・組織に安住してしまっている人たちがいるため、そこを改善しないと、新しいことをするにも、なかなか物事が前に進まなくなっているように思う。

P 委員

- ・私がこの懇談会に参加して、地域にこれだけ多くの団体があることを知って驚いた。
- ・私の推測であるが、町会の役員は各団体と何らかのつながりは持っており、各活動の中身は承知しているのではないかと思う。ただ、町会の一般の会員は、例えば、青少年育成地区委員会のことは、何かの行事の時に一緒に行動したという印象くらいで、あまり認識していないと思う。
- ・町会の活動は、役員の方が引っ張って行くものだとするならば、ある程度、他の団体とつながりはあるのではないかと思う。ただ、つながりに抜けがないかどうかは誰も検証していない。
- ・私は地域でボランティア活動をしているが、懇談会の委員の皆さんの団体の活動とは直接関係がない。前にも話したが、私は、私達の活動を知ってもらうために、町会をお願いをして、広報活動を手伝ってもらった経験がある。
- ・一般のボランティア団体からみれば、町会・自治会がどのような活動をしているか、自分たちの周りにどのような団体があるか分からない状態だと思う。個人的には、お互いを知ることでは何か一声掛けてもらえれば、活動の幅も広がるように思う。
- ・私達の団体は、石神井公園の駅前に小さな拠点の広場をつくっており、その活動には商店会も参加しているため、商店会のお祭りの情報や、商店会に対する区から様々な情報が入ってきている。そういう意味では、私達の団体が、他の団体との接点を持つことにより、もっとPRなどができるのではないかと考えている。
- ・ボランティア団体は、地域福祉団体を紹介冊子や、活動の発表会などもあるため、それなりに何の活動をしているか分かっている部分もあると思う。私達の団体は、活動を行ううえで、他団体と連携することもあるので、ボランティア団体同士は、ある程度、交流があると思う。

座長

- ・ボランティア団体同士ではある程度ネットワークができているのではないかというご意見であった。ただ、ボランティア団体から見ると、青少年育成地区委員会や町会・自治会があることは知っているが、具体的には何をしているかまでは、見えにくいというこ

とである。

- ・学校関係や町会・自治会から見て、地域に様々なボランティア団体があることは認識できているのか。

○委員

- ・認識していないと思う。

Ｋ委員

- ・NPOの立場からすると、全部のNPOが町会・自治会などと関係するわけではないと思う。例えば、子育て支援の団体は、地域の子育てを支援しようという目的で活動を行っているため、地域との関係もあると思う。ただ、NPOには活動分野が17分野あり、地域と関係のない分野もあるので、一律ではないと思う。
- ・中高生やもう少し年齢が高くなると、NPOとの関係が薄くなるように思う。NPOで地域と関係が深いのは、小さな子どもを持つ方を支えるような団体ではないか。その他、地域の学童クラブと連携しているところは多く見受けられる。

○委員

- ・世代間交流を進めることを目的として、お年寄りのグループで、学童クラブや幼稚園などで紙芝居やマジックなどを行っている。子どもたちも、祖父母と一緒に住んでいないため、非常に喜ばれる。青少年育成地区委員会でもこうした世代間交流に取り組みれば良いと思う。
- ・少子高齢化が進展する中で、各団体が時代背景をもっと考えながら、地域でも活動していくことが大事だと思う。

座長

- ・社会福祉協議会から見た場合、様々な団体のことは活動内容も含めて見えているのか。

Ｌ委員

- ・各団体は、それぞれの目的に合わせて活動しているので、なかなか横につながる機会、お互いを知る機会は無いように思う。
- ・各団体会い、成功体験を積み重ねることによって、活動の幅が広がったり、厚みが増したりできるのではないかと。そうした点から「第3次地域福祉活動計画」でも、団体や人、情報をつなぐということを、地域福祉コーディネーターの役割として位置づけている。

座長

- ・現状について、それぞれの立場から発言をいただいた。他のご意見があればお出しいただきたい。

Ｃ委員

- ・高齢者の見守りについて、町会長の立場で発言したい。民生委員の話も出ていたが、プライバシーのことがある中で、どこまで高齢者に声をかけて良いのかという問題がある。数年前にも区が町会長を集めて、高齢者への声かけのことを話し合ったことがあるが、

やはりプライバシーの問題があって、どこに高齢者が住んでいるのか分からないとか、隣の高齢者がどうなっているのか、分からないのが現状であった。

- ・地域福祉コーディネーターの話を聞いて、相変わらず、同じようなことが検討されている。プライバシーの問題があるから諦めるのではなく、いろいろ勉強を重ね、進めていくことが大事だと感じている。
- ・学校について、町会が学校との関わりの中で一番強いのは防災訓練である。私達の町会内には3つの学校があるので防災訓練も年3回行っている。学校関係の役員の方は、どうしても1年で交代することもあり、先ほどの町会連合会支部と青少年地区委員会が連携していくという提案は良いと思う。
- ・また、町会は様々な人が参加しているため、みんなの意見を聞き入れることはできない。こうした点から、例えば、私達の町会では、学校や子どもの関係は地区区民館にお願いしており、その役割分担が上手く行っていると思っている。私達の町会では、それなりに様々な団体との関係も良好な状況だと思う。

座長

- ・地区祭について伺いたい。地区祭は、様々な団体がつながる機会となっていると思うが、地区祭でつながっていく団体と、広がっていかない団体などの現状について伺いたい。

B委員

- ・私達の地域の地区祭は、小学校3校と中学校1校あるが、基本的には小学校3校の持ち回りで行っている。町会としても、町会内にどのような団体があるかは分らないが、地区祭で団体から参加希望の申し出があって、初めて団体の存在を知ることも多い。参加を希望する団体には活動内容も含めて話を聞いたうえで、地域の団体であれば参加をしてもらっている。少しずつ参加団体は増えてきている。
- ・地区祭の運営には学校や商店街など様々な人が出てくるので、その場ではつながりが持てる。運営に係る会合では1回あたり40名から50名が集まり、和やかな雰囲気話し合いを行っている。
- ・また、地区祭の話ではないが、町会は多くの団体とつながっている。地区区民館運営委員会、老人会、商店会ともつながっているので、ある程度の情報交換ができています。
- ・地区区民館の運営委員会には、各町会の役員も委員として参加しているため、その場でも情報交換ができています。
- ・町会連合会に17の支部を設けたことには非常に大きな意味がある。当時は、町会連合会に入っていない町会・自治会もあったが、今回の支部会では全ての町会・自治会に入ってもらっている。これにより、様々な情報が支部会に上がってくる。
- ・どのような括りでまとめるのが望ましいかという問題もあるが、こうした既存のまとまりを活用していくのが、立ち上がり易いのではないかと。
- ・様々な団体が一つの輪の中に入り、この地域をどうするかという話をしていく時期にきていると思う。

座長

- ・これまでの話を整理する。
- ・一つ目は、学校や青少年育成地区委員会、町会・自治会など、既存の団体同士がしっかりネットワークを作っていること。ただし、しっかりと決まっていることが多いため、改めて地域の活性化を実現していくとなると、変化をすることが難しい側面もあるということである。
- ・二つ目は、個々の団体は活発な活動をしており、団体同士のこともお互いにある程度は把握しているということ。ただ、NPOやボランティア団体からすると、町会・自治会などの存在は知っているが、どのような活動をしているかまでは分からないということである。町会・自治会との関係では、地区祭という場があり、そこに参加してもらえば、個々の団体とつながることができるということである。
- ・それぞれのところにつながりはあるが、全体がつながっていくためには知らないところもあり、なかなか相容れないところもあるので、もう少し上手くつながることができれば良いというのが現状のように思う。
- ・こうした現状を踏まえ、地域を活性化するうえで、どのようにつながっていくことがいいのか、コーディネーターや拠点となる施設なども含め、可能かどうかは抜きにしてご意見をいただきたい。

O委員

- ・行政の力を借りることで、つながることはできるように思う。区では地域活動団体を紹介する冊子を作成しているが、全部の団体が掲載されているわけではない。
- ・区民意識意向調査で、多くの方が、社会参加をしたいと思っても、地域に情報がない、きっかけがないという回答をしている。こうした結果を見ると、区が地区区民館や区立の施設で活動をしている団体を集約して、情報を発信することが良いのではないかと思う。今まで、区が作成している地域活動団体の紹介冊子の内容を、超えたものができると思う。こうした情報を情報誌として様々なところに置いてもらえれば、これから社会参加したいと考える人にも役立つと思う。

座長

- ・地域活動の情報の網羅的な収集と提供についてのご発言である。行政が取り組むかどうかは別として、そうした機能があると良いというご意見だったと思う。

K委員

- ・情報の発信について、NPO活動支援センターは区内のNPOに関する情報を持っており、社会福祉協議会はボランティア団体に関する情報を持っている。それぞれがホームページで情報を公開しているが、区のホームページでは、すぐに区民活動などの情報につながらない状態になっている。情報はある程度把握していると思うので、情報の活用方法を検討する必要があると思う。

J委員

- ・学校応援団で様々な活動をしているが、どこにつながりを持ちたい団体があるか分からない。区に問い合わせると紹介してもらえる形が一番良いが、すべての団体を把握するのが難しいと思う。インターネットの「知恵袋」のような機能がどこかにあると非常に助かる。

P 委員

- ・一般の区民は、多くの団体があることや、地区祭があることも知らないと思う。
- ・仮に町会に加入しようとした場合、自分の地域に町会があるのか、どこの町会なのか、誰に連絡すれば良いのか分からない。町会に加入しようとするだけでもこれだけのバリアがある。
- ・どこにどのような団体があって、どんな活動をしているか、情報誌にするかどうかは別として、情報が分かりやすく、容易に手に入れられることが一番大事だと思う。それにより、個人と団体、団体と団体がつながることもできると思う。

E 委員

- ・青少年育成地区委員会や地区区民館の運営委員会などで役員になっている方の多くは、自ら手を挙げて役員になっていないと思う。ボランティア団体は、こうした活動をやりたいと思って活動している。また、NPOは団体として目的を持って活動している。それぞれの成り立ちが違うため、一律に議論するのは難しい。
- ・地区区民館は、区内に22館あり、様々な団体と関わりながら、色々な事業を実施している。また、地区区民館の圏域も厳密に決まっており、地域のボランティア登録などを行うという話もある。そういう意味では、地区区民館が地域のボランティア団体を把握したり、行政と地域をつないだりといった役割を果たせるように思う。

座長

- ・今の意見は、区が示した資料の中の拠点施設を整備することと関連すると思うが、情報を集めて発信することと、その施設に行けば、ある程度の情報が手に入るということなど、拠点施設としては考えられると思う。ただ、既に地区区民館や社会福祉協議会、町会・自治会などの事務所もあるので、どこを拠点としていくかは難しい。そこまでこの懇談会として提言をしていくのかは分からないが、一つ情報を集めて発信するという機能について、拠点があれば良いという話が出たところである。
- ・こうした意見も含めて、施設があるだけではなく、その施設にコーディネーターのような人がいて、様々な情報を持ち、色々な働きかけを行うという提案が、以前の懇談会で、区からあったと思う。その辺りも踏まえて、どのような形で、どのような人材がいると良いのかご意見をいただきたい。

O 委員

- ・地区区民館には、地区区民館の役割がある。また、地区区民館の中でも活動が活発なところもあればそうでないところもあり、地区ごとで実情が違うと思う。
- ・ボランティア登録や拠点については、社会福祉協議会が地域福祉やボランティアに精通

しているので、そこを中心にすることが良いと思う。ただ、活動場所としては、地区区民館や地域集会所になると思う。

R委員

- ・施設の問題や情報の一元化のこととは別に、そもそも論ではあるが、そうした情報や問題に、意識的につながろうとする人を増やしていくという働きかけが必要だと思う。
- ・現在は、子どもの頃からキャリア教育が始まっている。職業観など含め、教育の現場だけではなかなか対応できないことも多い。そうした際に、コーディネーター的な役割の人がいて、地域にあるキャリア教育ができるような情報を、地域のネットワークの中から集め、教育現場とつなぐとか、「こうした仕組みがあれば良いのに」と考えることで、地域での新しい取り組みや解決方法が見えてくると思う。
- ・こうした点を踏まえ、区ができることとして、情報収集や提供、施設の充実などもあると思うが、もう一つは、区が持っている課題について、あらゆる年代層の方々が共有できるよう語りかけ、啓蒙していくことが必要だと思う。そうした現状を区民が知ること、自分たちが住みたい社会を目指し、意欲がある人が、自ら活動していけるような仕掛けを作っていくことだと思う。
- ・こうした段階を踏んで、いま足りないものが何かということ、どうしていくのが良いのかということ、足りない役割をコーディネーター機能やNPOとの協働の場で新しい仕組みとして作っていくということが、求められているように思う。
- ・復興住宅の話をもみても、雨風をしのげれば良いということではなく、人が集まれるたまり場をつくるような見直しが必要になってきている。
- ・地域の活性化で問われているのは、あらゆる現場でこれまでの仕組みでは対応できないことが起こっている中で、新しい発想が出てこない状態にあることだと思う。どうしたら、柔らかな関係性のもとにつながり、課題を解決するような仕組みになっていくのか、議論をしていかなければならないと思う。
- ・区の大事な役割として、あらゆるメディアや地区区民館、社会福祉協議会、その他の出先機関などを利用しつつ、多くの人に語りかけるようなセミナーや講演会などを開催し、人を集め、議論する場を提供してもらいたいと思う。

座長

- ・今のご意見は、地域のことを決める際には、地域ごとで相談しながら進めていくことが大事であり、地域の将来を考えるうえで、学習機会の提供や啓蒙活動などが必要になるという話だと思う。
- ・ご意見を伺って二つの場の必要性があるように思う。一つは、既存の団体が何をしているのか、お互いの活動を知る機会、交流する場が必要であり、もう一つは、自分たちの地域をどうするのか、そのために何ができるかを地域で考える場、学習する場が必要であるということだと思う。
- ・ここからは、もう少し議論をしばって検討したいと思う。今まで出てきたような、情報

の収集と発信、あるいは、既存団体の交流、地域の学習や問題の発見といったことに取り組むために、何らかの専門家が必要ではないか、また、団体同士は、何か働きかけをしなければ、結びつくのは難しいという話が、本日の懇談会のテーマとしてあった。それをつなぐコーディネーターが、どういう人であるかがポイントになる。

- ・具体的に練馬区の場合、どのような人が、コーディネーターとしての役割を果たすことが、しっくりくるのかご意見を伺いたい。
- ・これまでの事例には、区の職員が地区担当制で担当する場合もあれば、地域福祉コーディネーターのような活動もある。また、海外では、地域を組織していく専門家を配置していることもある。行政の予算で専門家を雇用し、各地域へ配置するということがあれば、地域で中心になって活動している町会・自治会や団体の人を非常勤などで任命し、取り組むという方法もあるが、ご意見をいただきたい。

〇委員

- ・本日説明があった社会福祉協議会の、地域福祉コーディネーターの取組は良いと思う。しかし、どちらかと言えば、ソーシャルワーカーやケアワーカーのように、個人を対象として色々なところとつなげるという意味合いが強いように思う。地域のコーディネーターは、これ以上に様々な活動団体を結びつけること、ダイナミズムが必要だと思う。
- ・区が、地域のコーディネーターを育成する講座などを開催し、民間の人を育てていくのが良いのではないかと思う。活動のベースは社会福祉協議会で良いと思う。

I委員

- ・町会がベースになるべきだと思う。一番の理由は、町会は対象が広く、若い人からお年寄りまで入ることができる。その地域に居ることが条件で、誰でも入れることができる。町会も個々に課題はあると思うが、コーディネーターを入れることで、いろいろな人や団体が出入りできるようになれば、情報の共有ができる場となる。やはり、歴史的にも実績のある町会に音頭をとってもらい、役割を果たしてもらいたいと思う。

M委員

- ・今年は、様々なところで「コーディネート」という言葉が使われている。スポーツ基本法が制定され、何人も平等にスポーツをする権利が謳われた。今まで、障害者スポーツは厚生労働省、競技スポーツは文部科学省という形で分かれていたものが一緒になった。練馬区でも体育指導委員会が教育委員会の管轄から離れ、区民生活事業本部になることが予定されている。
- ・これまでは、障害者のことは民生委員が地域で見守りを行っていた。これからは、スポーツ振興の分野でも障害者のスポーツに対して目を向けていくことになる。本当に多様化している。こうした流れをみると、町会・自治会のように、地域を一番よく知っている人間がやらないと地域の特性を活かすことが難しく、新しい人では負担が大きいと思う。

P委員

- ・コーディネーターとなる人が町会・自治会に何らかのコンタクトをとる場合、区から認められていることが重要だと思う。区の職員である必要はないが、区がその存在を認めていることが大事である。
- ・町会連合会支部はある程度のまとまった地域を持っており、それに関わっている方々は地域をよく知っていて、いろいろな経験をしている方だと思う。例えば、こうした方々がコーディネーターとなれば、地域の特性や実情を踏まえて、やることができるのではないかと思う。
- ・地域福祉コーディネーターの取組には期待している。どんどん地域へ入ってもらい活動が広がって行けば良いと思っている。地域によっては、高齢者相談センターが中心となって民生委員と連携すれば良いところもある。地域ごとに実情が違い、地域によってはコーディネーターが必要ない場合もあると思う。

O委員

- ・現状、町会の人的な資源を考えると、こうしたコーディネーターのようなことまで役割を担うことは難しいのではないかと思う。民間の人が、区から何らかの認証を受け、町会と連携しながら取り組んで行くほうが良いように思う。

H委員

- ・地域住民の立場からすると、私達の地域には有償のコーディネーターは必要ないと思う。極端な話、私たちの地域では税金の無駄遣いということになってしまう。私達の地域では、PTA、青少年育成地区委員会、町会・自治会などが、様々な行事を通じてつながっている。その中で情報交換もできている。勿論、知らない団体もあると思うが、連携が必要な際には、自然につながっていくと思う。当面の取り組みとしては、例えば、地区区民館に、そこで活動している団体の確認を得たうえで、各団体を紹介するコーナーのようなものがあればつながっていくように思う。
- ・仮にコーディネーターがいたとしても、つながらない団体や人は新たに出てくると思うので、結局、自分自身が地域とどうつながっていくかが大事な話になると思う。
- ・小学校PTA連合会の立場では、PTAの会長になると、多くの会議や行事などから、お声がけをいただくため、若い世代としてコーディネーター的な役割を担えるのではないか。実際、PTA活動をしたことで地域活動に目覚めていく人がいる。また、小学校の保護者と地域とのつながりが薄いことに気がつく人もいて、自分から積極的に地域の役員に立候補している人もいる。
- ・昨年からは、PTAと町会の人たちとの懇談会を、年に3回ぐらい設けている。
- ・こうしたことから、PTAがコーディネーター的な立場になれるのではないかと考えている。

K委員

- ・コーディネーターを誰が担うのか限定する必要はないと思う。何をやるかを議論しない

といけない。町会・自治会、PTA連合会、練馬区社会福祉協議会などと現時点で限定しないほうが良い。もう少し必要なことが何かを検討していくことが重要である。

L 委員

- ・練馬区社会福祉協議会の「地域福祉活動計画」のモデル地区で取り組んでいることは、30,000人の圏域であり、区内全域を網羅するには、20人以上も配置しなければならないため、非常に難しい。
- ・地域には、既にコーディネーター的役割を果たしている人たちもいる。そうした人たちとも連携していきたいと考えている。圏域としては、それほど広い圏域ではないと思うが、こうした方たちと連携を図りながら、地域福祉の推進、あるいは、地域課題の解決に取り組んでいきたい。その際に、少し専門的知識を持った職員が入ることで、違った取り組みもできるのではないかと考えている。

座長

- ・本日は様々なご意見をいただいた。練馬区は、地域によって実情が異なるため、地域の人たちが、地域の実情を踏まえて、町会・自治会を基盤とするのかどうか、情報の収集や発信、拠点施設、コーディネーターの必要性やあり方などについて、考えていくことが大事であるということだと思う。
- ・本懇談会として、一律に区が何かを考えるようなことを提言しても、あまり意味がないということだと思う。
- ・懇談会としてできることは、地域ごとに区民自身に考えて欲しいということと、それを考える時に、本懇談会で論点となったことを参考にして各地域で検討し、検討結果を活かして、活性化していけるような道筋を出す必要があるように思う。
- ・次回の懇談会までに、私と事務局とで懇談会の提言のイメージをまとめていく。次回は、提言のイメージも含め、地域活動に参加したことが無い人について議論したい。論点が残れば、もう1回懇談会開催する方向で調整する。

4 その他

事務局

- ・次回は10月6日の木曜日を予定している。時間や会場は本日と同じであるが改めて通知させていただく。

座長

- ・以上で第5回懇談会は終了する。